

インフルエンザ予防接種説明書

インフルエンザ予防接種を実施するに当たって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため、予診票にできるだけ詳しくご記入ください。

1. ワクチンの効果と副反応

予防接種により、インフルエンザ感染を予防したり、症状を軽くすることができます。また、インフルエンザによる合併症や死亡を予防することが期待されます。

予防接種を受けてからワクチンが十分な効果を期待する期間は、接種後2週間後から約5か月とされています。より効果的に有効性を高めるためには、毎年12月上旬までに接種を受けておくとうれしいとされています。

2. ワクチンの副反応

- ① 注射のあとが、赤くなる、腫れる、硬くなる、痛くなることがありますが、通常は2～3日で治ります。
- ② 微熱、寒気、頭痛、からだのだるさなどがみられることがありますが、通常は2～3日で良くなります。
- ③ 非常にまれですが、次のような副反応が起こることがあります。
 - ・ショック、アナフィラキシー様症状(じんましん、呼吸困難など)
 - ・ギラン・バレー症候群、けいれん、急性散在性脳脊髄炎、肝機能障害、黄疸、喘息発作このような症状が認められたり、疑われる場合は、すぐに医師に申し出てください。なお、健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく救済制度があります。

3. 予防接種を受けることができない人

- ① 明らかな発熱がある方。(37.5℃を超える人)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③ 過去にインフルエンザワクチンの接種を受けて、アナフィラキシーを起こしたことがある人。(なお、他の医薬品投与を受けてアナフィラキシーを起こした人は、接種を受ける前に医師にその旨を伝えて判断を仰いでください)
- ④ その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した人。

4. 予防接種を受けるに際して、医師とよく相談しなければならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人。
- ② カゼなどのひきはじめと思われる人。
- ③ 予防接種を受けたときに2日以内に発熱、発疹、じんましん等のアレルギーを疑う異常がみられた人。
- ④ 薬の投与又は食事(鶏卵、鶏肉など)で皮膚に発疹が出たり、体に異常をきたしたことがある人。
- ⑤ 今までにけいれんを起こしたことがある人。
- ⑥ 過去に本人や近親者で検査によって免疫状態の異常を指摘されたことがある人。
- ⑦ 妊娠の可能性のある人。
- ⑧ 気管支喘息のある人。

5. 接種後の注意

- ① インフルエンザワクチンを受けた後30分間は、急な副反応が起きることがあります。医療機関にいますなどして、様子を観察し、医師とすぐに連絡をとるようにしておきましょう。
- ② 接種当日の入浴は差し支えありませんが、注射した部分をこすることはやめましょう。
- ③ 接種当日は、接種部に清潔に保ち、いつも通りの生活をしましょう。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- ④ 万が一、高熱やけいれんなどの異常な症状が出た場合は、速やかに医師の診療を受けてください。